

Ciconia (福井県自然保護センター研究報告) 5:29-38 (1996)

京都府丹波北山地域の鳥類相

大迫義人¹

はじめに

自然環境を保全するには、生物の生息・生育環境をその種類、面積、構造などを多角的に分析し、その結果を実際に応用してゆくことが必要である (Meffe & Carroll 1994)。鳥類においても環境の違いによって生息する種数や種構成は異なっており（たとえば藤巻 1970, 村井・樋口 1988, 由井 1988），これを分析することによって、各種の生息のための条件を明らかにできる。しかし、生息環境は類似していても、緯度・経度やその他の立地条件によっても鳥類相が異なってくると考えられる。そこで、同じ場所において改変の前後での鳥類相の比較を行なうことが最も有効であるが、この観点での調査・分析事例は少ない（たとえば海老原 1990, 松村 1994）。

京都府京都市左京区花背から丹波町下山にかけては、丹波広域基幹林道計画があり、1994年現在、一部の建設が着工されている。この改変により鳥類相が変化するものと予想され、その影響を評価するためには現在の鳥類相を把握しておくことが必要である。そこで、既存文献の収集と現地調査によって同地域の鳥類相についてまとめ、保全上の留意点について考察してみた。

調査地と方法

文献調査は、京都府丹波北山地域の範囲で1971年から1995年にかけて調査された資料を収集しました。

現地調査は、1994年7月30日～8月1日と11月29日に、京都府京都市左京区上黒田地区の片波川上流域で行なった。片波川の分岐点 ($35^{\circ} 13'10''N$, $135^{\circ} 45'E$) から片波広域林道を通り、その終点を過ぎて尾根沿いの山道を通り衣懸坂 ($35^{\circ} 14'40''N$, $135^{\circ} 44'10''E$) まで、標高390～810mの約5,250mの調査ルートを設けた（図1）。夏期には、5:20～8:35に調査ルートを約1.5km／時の速度で歩き、その後、ルート上の任意の場所と時間で観察を行なった。秋期には、9:27～12:43に調査ルートを歩いて観察を行なった。観察された鳥類の種と繁殖状況について記録し、営巣、育雛、巣立ち後の幼鳥を確認した場合に繁殖していると判断した。なお、観察と識別は、8倍の双眼鏡を用いて行なった。

1.〒912 福井県大野市陽明町4-502, 43号

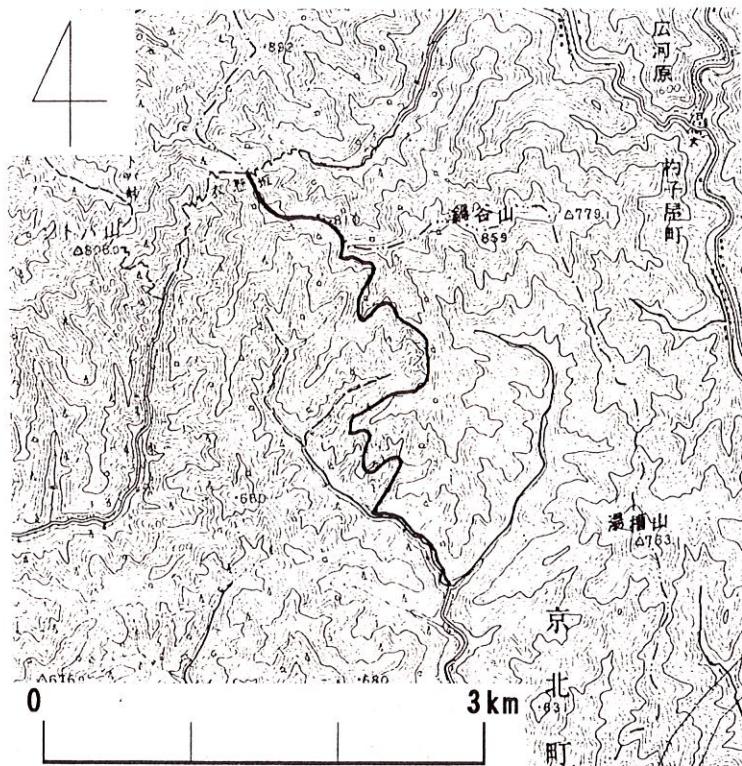


図1. 現地調査地と調査ルート。

Fig. 1. Study area and census route.

結果と考察

文献調査と現地調査で確認された種と学名は表1にまとめた。

1. 文献調査

丹波北山地域で調査されている鳥類に関して計17編の文献が収集され、記録されている種は計16目39科120種であった（渡辺・二村 1971, 中村・須川 1974, 渡辺 1980, 大迫ほか 1981, 日本野鳥の会京都支部 1984a, 1984b, 1985, 1986, 1987, 1988, 1989, 二村 1989, 日本野鳥の会京都支部 1990, 1992, 1993, 1994, 1995）。そのうち現地調査地から約8km離れている北桑田郡美山町芦生で計16目39科117種、また約9km離れている京都市左京区尾越町八丁平で計10目28科81種が記録されていた（表1）。京都府の鳥類は1993年までに18目58科299種が確認されているが（京都府 1979, 1993），この地域で40.1%の種が記録されていることになる。これらのうち環境庁指定の「日本の絶滅のおそれのある野生生物」（環境庁自然保護局野生生物課 1991）の絶滅危惧種のクマタカ, イヌワシ, ヤイロチヨウ, 危急種のオオタカ, ハヤブサ, 希少種のミゾゴイ, オンドリ, ハチクマ, ハイタカ, ブッポウソウが記録されていた。

2. 現地調査

計8目19科32種の鳥類が記録されたが、これらの種はすべて文献に記載されていた。そのうち絶滅危惧種のクマタカが1994年7月31日と11月29日に観察された。また、繁殖の確認された種はなかったが、夏期に記録された種は、その確認がなくてもその可能性はある（表1）。

夏期の調査時期が、多くの夏鳥の繁殖期後期であったために生息していても鳴き声により確認ができず、かつ、調査日数も少なかったために、現地調査では文献調査で確認された種の26.7%しか記録されなかった。ある地域のすべての生息種とすべての出現種を記録するためには、少なくとも、それぞれ1月と5月に計20日、1月、3月、4月、5月、9月、10月と12月に計167日の現地調査が必要であり（大迫ほか 1996），今回の現地調査の時期と日数は不足していた。

考 察

丹波北山地域の鳥類相とその保護

京都府丹波北山地域は標高300～900mの山地であることより（京都府 1979），確認された種はそのほとんどが林野性の鳥類であった。水帯性や移水帯性のアビ類、ミズナギドリ類、サギ類、ガンカモ類は、移動の途中、何らかの理由で一時的に滞在または落下して記録されたものと考えられる。しかし、ガンカモ類のオンドリは山地を繁殖の場所とすることより（中村・中村 1995b），当地域に生息・繁殖している可能性がある。一時滞在または本来の生息環境でない種を除き、計95種が生息していると考えられる。

生息種のなかで、京都府では、深山でないとあまり観察されないクマタカ、イヌワシ、ヤマドリ、アオシギ、ジュウイチ、コノハズク、オオコノハズク、アカショウビン、ブッポウソウ、オオアカゲラ、ヤイロチョウ、イワツバメ、ミソサザイ、カヤクグリ、コマドリ、コルリ、マミジロ、キクイタダキ、サメビタキ、ゴジュウカラ、キバシリ、コガラ、マヒワ、ハギマシコ、イスカ、ウソが確認された。大きな改変があれば、これらの種の生息が危うくなると考えられる。

「日本の絶滅のおそれのある野生生物」のなかで、ハヤブサは、その生息環境が海岸や広い草原、原野などであるので、それらの存在しない調査地では、一時的に記録されたと考えられる。クマタカには採食場所として天然林・人工林と営巣場所として胸高直径50cm以上の高径木が（由井・石井 1994），イヌワシには採食場所としての高茎草原・低木林・伐採跡地などと営巣場所としての傾斜30°以上の急傾斜地が（石川県白山自然保護センター 1985），ヤイロチョウには林床が湿っぽく落ち葉の豊富な常緑広葉樹林・人工林と南面した40～45°の傾斜地が（中村・中村 1995a），オオタカには採食場所として草地・低木林と営巣場所としてアカマツ林が（由井・石井 1994），ミゾゴイには密林となった針葉樹や落葉広葉樹が（中村・中村 1995b），オンドリには生息場所として河川、湖沼と営巣場所として広葉樹の高径木が（中村・中村 1995b），ハチクマには落葉広葉樹林や針葉樹林が（中村・中村 1995a），ハイタカには森林が（中村・中村 1995a），ブッポウソウには生息場所として巨木の多い常緑広葉樹林と営巣場所として大きい枯れ木が必要である（中村・中村 1995a）。片波川上流の稜線沿いには、アシウスギ *Cryptomeria japonica*

表1. 京都府丹波北山地域で確認された鳥類リスト。

Table 1. List of bird species recorded in Tanba-Kitayama District, Kyoto in literature and field observation.

目 Order	科 Family	種 Species	学名 Scientific name	「日本の絶滅のおそれのある野生生物」掲載種のランク	渡り ¹ Migration	文献調査 Literature	
						a ²	b ²
アヒ	アヒ	オオハル シロツリオオハル	<i>Gavia arctica</i> <i>Gavia pacifica</i>		冬鳥 旅鳥	○	○
ミズナギドリ コウノトリ	ミズナギドリ サギ	ミズナギドリ コノトリ ミヅゴイ コサギ	<i>Calonectris leucomelas</i> <i>Nycticorax nycticorax</i> <i>Gorsakius goisagi</i> <i>Egretta garzetta</i>		夏鳥	○	○
ガシラモ	ガシラモ	ガシラモ カガモ コガモ	<i>Aix galericulata</i> <i>Anas poecilorhyncha</i> <i>Anas crecca</i>	希少種	留鳥 夏鳥 留鳥		
ワシタカ	ワシタカ	ハチワカ トビ オオカ ミミ ハイタカ スズリ サシバ クマタカ イヌシ ハヤブサ チヨハヤブサ チヨウゲンボウ	<i>Pernis apivorus</i> <i>Milvus migrans</i> <i>Accipiter gentilis</i> <i>Accipiter gularis</i> <i>Accipiter nisus</i> <i>Buteo buteo</i> <i>Buteastur indicus</i> <i>Spizaetus nipalensis</i> <i>Aquila chrysaetos</i> <i>Falco peregrinus</i> <i>Falco subbuteo</i> <i>Falco tinnunculus</i>	希少種 危急種 希少種	旅鳥 留鳥 旅鳥？ 留鳥 留鳥 冬鳥 夏鳥 留鳥 無記載 危急種	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
ブル	クサ		<i>Porzana fusca</i>		夏鳥		
キジ	キジ	コジコロイ ヤマトリ キジ	<i>Bambusicola thoracica</i> <i>Phasianus soemmerringii</i> <i>Phasianus colchicus</i>		留鳥 留鳥 留鳥	○ ○ ○	○ ○ ○
チドリ	チドリ	イカルチドリ シギ	<i>Choradrius placidus</i> <i>Scolopax rusticola</i>		留鳥	○	○
ハト	ハト	キジハト オオハト	<i>Gallinago solitaria</i> <i>Streptopelia orientalis</i>		冬鳥 留鳥		○
ホトトギス	ホトトギス	ショウジョウ カツラ ワタリ ホトトギス	<i>Cuculus fugax</i> <i>Cuculus canorus</i> <i>Cuculus saturatus</i> <i>Cuculus poliocephalus</i>		夏鳥 夏鳥 夏鳥 夏鳥	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○
フクロウ	フクロウ	コノハズク オオノハズク オオバズク フクロウ	<i>Otus scops</i> <i>Otus bakkamoena</i> <i>Ninox scutulata</i> <i>Strix uralensis</i>		夏鳥 留鳥 夏鳥 留鳥	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○
ヨツカ	ヨツカ	ヨツカ アマツバメ アマツバメ	<i>Caprimulgus indicus</i> <i>Chaetura caudacuta</i> <i>Apus pacificus</i>		夏鳥 旅鳥 旅鳥	○ ○ ○	○ ○ ○
アカネ カツラ	アカネ カツラ	アカネ アカネ カツラ アカネ カツラ	<i>Ceryle lugubris</i> <i>Halcyon coromanda</i> <i>Alcedo atthis</i> <i>Euryystomus orientalis</i> <i>Upupa epops</i>	希少種	留鳥 夏鳥 留鳥 夏鳥 迷鳥	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○
キツツキ	キツツキ	アカネ アカネ オオカツラ コガネ	<i>Picus awokera</i> <i>Dendrocopos major</i> <i>Dendrocopos leucotos</i> <i>Dendrocopos kizuki</i>		留鳥 留鳥 留鳥 留鳥	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○
スズメ	ヤイロチヨウ	ヤイロチヨウ ツバメ ツバメ ツバメ セキレイ	<i>Pitta brachyura</i> <i>Riparia riparia</i> <i>Birdundo rustica</i> <i>Delichon urbica</i> <i>Motacilla cinerea</i>	絶滅危惧種	夏鳥？ 旅鳥 夏鳥 旅鳥		○
						○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○
						○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○
						○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○
						○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○
						○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○

1. 京都府(1979)による。

2. a: 渡辺・二村(1971)。

b: 中村・須川(1974)。

c: 大迫ほか(1981)。

d: 日本野鳥の会京都支部(1984a, 1984b, 1985, 1986, 1987, 1988, 1989, 1990, 1992, 1993, 1994, 1995)。

e: 二村(1989)。

f: 渡辺(1980)。

文献調査 Literature					現地調査 Field observation	
八丁平	d ²	e ²	f ²	芦生	夏期	秋期
c ²				d ²	Summer	Autumn
○		○				
	○					
	○					
○		○				
○	○					
○	○	○				
○	○	○	○	○	○	
○	○	○	○	○	○	
○	○	○	○	○		○
○	○	○	○	○		○
○	○	○	○	○		○
○	○	○	○	○		○
○	○	○	○	○		
	○	○	○			
	○	○	○			
○	○	○	○	○		○
○	○	○	○	○		○
○	○	○	○	○		
	○	○	○			
	○	○	○			
○	○	○	○	○		
○	○	○	○	○		
○	○	○	○	○		
	○	○	○			
	○	○	○			
○	○	○	○	○		
○	○	○	○	○		

表1. 京都府丹波北山地域で確認された鳥類リスト. (続き)

Table 1. List of bird species recorded in Tanba-Kitayama District, Kyoto in literature and field observation. (continued)

目 Order	科 Family	種 Species	学名 Scientific name	「日本の絶滅の おそれのある野生生物」掲載種 のランク	文献調査 Literature	
					渡り ¹ Migration	八丁平 a ² b ²
スズメ科	サンショウウ科	サンショウウ科	<i>Pericrocotus divaricatus</i>		夏鳥	
	ヒヨドリ科	ヒヨドリ	<i>Hypsipetes amaurotis</i>		留鳥	○
	モズ科	モズ	<i>Lanius bucephalus</i>		留鳥	○
レンジ・ヤク	キレンジ・ヤク	Bombycilla garrulus			冬鳥	○
	ヒレンジ・ヤク	<i>Bombycilla japonica</i>			冬鳥	○
カラマツラス	カラマツラス	<i>Cinclus pallasi</i>			留鳥	○
ミツサザイ	ミツサザイ	<i>Trochococcyx trochococcyx</i>			留鳥	○
イリビタリ	カヤハグリ	<i>Prunella rubida</i>			冬鳥	○
ヒタキ	コマツリ	<i>Erythacus akahige</i>			旅鳥	○
	ノコマ	<i>Erythacus calliope</i>			旅鳥	○
	コトリ	<i>Erythacus cyane</i>			旅鳥	○
	トリヒタキ	<i>Tarsiger cyanurus</i>			冬鳥	○
	ショウジョウ	<i>Phoenicurus auroreus</i>			冬鳥	○
	バビタキ	<i>Saxicola torquata</i>			旅鳥	○
	マジロ	<i>Turdus sibiricus</i>			旅鳥	○
	トラタガミ	<i>Turdus dauma</i>			旅鳥	○
	クロタガミ	<i>Turdus cardis</i>			夏鳥	○
	アカラ	<i>Turdus chrysolaus</i>			旅鳥	○
	シロハラ	<i>Turdus pallidus</i>			冬鳥	○
	マミヤシ	<i>Turdus obscurus</i>			旅鳥	○
	ツガミ	<i>Turdus naumanni</i>			冬鳥	○
	ヤブサメ	<i>Cettia squamiceps</i>			夏鳥	○
	ウグイス	<i>Cettia diphone</i>			留鳥	○
	ホトリムシクイ	<i>Phylloscopus borealis</i>			旅鳥	○
	イリスルクイ	<i>Phylloscopus tenellipes</i>			旅鳥	○
	センタクムシクイ	<i>Phylloscopus occipitalis</i>			夏鳥	○
	ヨウタク	<i>Regulus regulus</i>			冬鳥	○
	キビタキ	<i>Ficedula narcissina</i>			夏鳥	○
	ムギマキ	<i>Ficedula mugimaki</i>			旅鳥	○
	オナトリ	<i>Cyanoptila cyanomelana</i>			夏鳥	○
	サヒタキ	<i>Muscicapa sibirica</i>			旅鳥	○
	エリビタキ	<i>Muscicapa griseisticta</i>			旅鳥	○
	コサメビタキ	<i>Muscicapa latirostris</i>			夏鳥	○
	サフコウチョウ	<i>Terpsiphone atrocaudata</i>			夏鳥	○
コガネムシ科	コガネ	<i>Aegithalos caudatus</i>			留鳥	○
シジュウカラ科	コガラ	<i>Parus montanus</i>			留鳥	○
	ヒガラ	<i>Parus atter</i>			留鳥	○
	ヤマガラ	<i>Parus varius</i>			留鳥	○
	シジュウカラ	<i>Parus major</i>			留鳥	○
コジュウカラ科	コジュウカラ	<i>Sitta europaea</i>			留鳥	○
キバシリ	キバシリ	<i>Certhia familiaris</i>			留鳥	○
メジロ	メジロ	<i>Zosterops japonica</i>			留鳥	○
ホシジロ	ホシジロ	<i>Emberiza cioides</i>			留鳥	○
	ホウダガ	<i>Emberiza rustica</i>			冬鳥	○
	ミキマホオジロ	<i>Emberiza elegans</i>			冬鳥	○
	ノジコ	<i>Emberiza sulphurata</i>			旅鳥	○
	アシジ	<i>Emberiza spodocephala</i>			冬鳥	○
	クリジ	<i>Emberiza variabilis</i>			冬鳥	○
アトリ科	アトリ	<i>Fringilla montifringilla</i>			冬鳥	○
	カラハヒ	<i>Carduelis sinica</i>			留鳥	○
	マツワ	<i>Carduelis spinus</i>			冬鳥	○
	ハギマシコ	<i>Leucosticte arctoa</i>			冬鳥	○
	イカ	<i>Loxia curvirostra</i>			冬鳥	○
	ベニマシコ	<i>Uragus sibiricus</i>			冬鳥	○
	クリ	<i>Pyrhula pyrrhula</i>			冬鳥	○
	カツル	<i>Eophona personata</i>			留鳥	○
	シメ	<i>Coccothraustes coccothraustes</i>			冬鳥	○
ハタオリ科	スズメ	<i>Passer montanus</i>			留鳥	○
カラス科	カラス	<i>Garrulus glandarius</i>			留鳥	○
	ホガラス	<i>Nucifraga caryocatactes</i>			迷鳥	○
	ハシボソガラス	<i>Corvus corone</i>			留鳥	○
	ハシゴトガラス	<i>Corvus macrorhynchos</i>			留鳥	○

var. *radicans*, ヒノキ *Chamaecyparis obtusa*, モミ *Abies firma*, クリ *Castanea crenata*, イヌブナ *Fagus japonica*などの高径木が残されており（日本生物多様性防衛ネットワーク 1995），それらを営巣場所とするクマタカ，オンドリ，ブッポウソウなどにとっては，広域林道の工事にともなう改変によって大きな影響がでるであろう。

当地域は，ヒメコマツーホンシャクナゲ群落やアシウスギーイヌブナ群落などの特筆すべき植生が残っており（日本生物多様性防衛ネットワーク 1995），また，「日本の絶滅のおそれのある野生生物」の鳥類が10種も記録されており，これから十分な保全対策が求められる。

謝　　辞

この調査は，環境事業団平成6年度地球環境基金の助成を受けて，「京都府丹波北山地域の動植物相の保全・保護調査」のひとつとして行なった。現地調査を谷口明里さんに手伝っていただいた。記して感謝する。

要　　約

京都府丹波北山地区の鳥類相について，文献調査と現地調査を行なった。1971年から1995年までに報告された計17編の文献が収集され，計16目39科120種の鳥類が記録されていた。1994年7月30日～8月1日と11月29日の現地調査で，計8目19科32種の鳥類が記録されたが，すべて文献に記載されていた。文献調査では，環境庁指定の「日本の絶滅のおそれのある野生生物」の絶滅危惧種のクマタカ，イヌワシ，ヤイロチョウ，危急種のオオタカ，ハヤブサ，希少種のミゾゴイ，オンドリ，ハチクマ，ハイタカ，ブッポウソウの記録があり，現地調査ではクマタカが観察された。これらの種の生息のために自然林と高径木の保存が求められる。

引用文献

- 海老原美夫. 1990. 熊谷市大麻生地区におけるゴルフ場開設前と後の観察鳥種の出現率の変化－定例探鳥会の結果から－. *Strix* 9:117-125.
- 藤巻裕蔵. 1970. 北海道中央部における天然林と人工林の鳥相の比較. 北海道林業試験場報告 8:43-55.
- 石川県白山自然保護センター. 1985. 県鳥（イヌワシ）保護調査報告書. 48pp. 石川県白山自然保護センター, 石川県.
- 環境庁自然保護局野生生物課. 1991. 日本の絶滅のおそれのある野生生物－レッドデータブック－（脊椎動物編）. 331pp. 日本野生生物研究センター, 東京.
- 京都府. 1979. 京都の野鳥. 112pp. 京都府, 京都.
- 京都府. 1993. 京都の野鳥. 176pp. 京都府, 京都.
- 松村俊幸. 1994. 福井臨海工業地帯におけるワシタカ類の出現状況とその環境選択. *Ciconia* 39-25.
- Meffe, G.K. and C.R. Carroll. 1994. Principles of conservation biology. 600pp.

Sinauer Associates, Sunderland.

- 村井英紀・樋口広芳. 1988. 森林性鳥類の多様性に影響する諸要因. *Strix* 7:83-100.
- 中村登流・中村雅彦. 1995a. 原色日本野鳥生態図鑑<陸鳥編>. 301pp. 保育社, 大阪.
- 中村登流・中村雅彦. 1995b. 原色日本野鳥生態図鑑<水鳥編>. 304pp. 保育社, 大阪.
- 中村浩志・須川恒. 1974. 京都府の鳥類. 京都府の野生動物:103-128. 京都府, 京都.
- 日本生物多様性防衛ネットワーク. 1995. 京都府丹波北山地域の動植物相の保全・保護調査. 86pp.
- 日本野鳥の会京都支部. 1984a. '84秋のタカ類の渡りの調査報告書. そんぐぼすと 11:1-12.
- 日本野鳥の会京都支部. 1984b. (昭和) 58年度探鳥会出現鳥一覧. 1p.
- 日本野鳥の会京都支部. 1985. (昭和) 59年度探鳥会出現鳥一覧. 2pp.
- 日本野鳥の会京都支部. 1986. '86秋のタカ類の渡りの調査報告書. そんぐぼすと 23:1-14.
- 日本野鳥の会京都支部. 1987. (昭和) 61年度探鳥会出現鳥一覧. 2pp.
- 日本野鳥の会京都支部. 1988. (昭和) 62年度探鳥会出現鳥一覧. 2pp.
- 日本野鳥の会京都支部. 1989. 1988年度出現鳥一覧. 2pp.
- 日本野鳥の会京都支部. 1990. 1989年度出現鳥一覧. 2pp.
- 日本野鳥の会京都支部. 1992. 1991年度出現鳥一覧. 2pp.
- 日本野鳥の会京都支部. 1993. 1992年度出現鳥一覧. 2pp.
- 日本野鳥の会京都支部. 1994. 1993年度出現鳥一覧. 2pp.
- 日本野鳥の会京都支部. 1995. 1994年度出現鳥一覧. 2pp.
- 二村一男. 1989. 芦生演習林の鳥類相の季節変化. 京大演集報. 19:1-16.
- 大迫義人・納村力・多田雅充. 1996. 福井県の丘陵地における鳥類相の効率的な調査日数と調査時期. *Ciconia* 5:39-45.
- 大迫義人・笛原裕二・千村章彦・葉山政治. 1981. 芦生の鳥類相. 京大野生生物研究会会報 やけん 4:30-33.
- 渡辺弘之. 1980. 3 動物調査. 八丁平環境調査報告書: 108-125. 京都市経済局, 京都.
- 渡辺弘之・二村一男. 1971. 芦生演習林の鳥類相. 京大演報. 42:1-13.
- 由井正敏. 1988. 森に棲む野鳥の生態学. 237pp. 創文, 東京.
- 由井正敏・石井信夫. 1994. 林業と野生鳥獣との共存に向けて 森林性鳥獣の生息環境保護管理. 279pp. 日本林業調査会, 東京.

Avifauna of the Tanba-Kitayama District, Kyoto

Yoshito Ohsako¹

The avifauna of the Tanba-Kitayama district, Kyoto was studied in literature and field observation in 1994. A total of 120 species of 39 families of 16 orders was recorded, of which a total of 32 species of 19 families of 8 orders was observed on 30 July-1 October and on 29 November in 1994. There were recorded Mountain Hawk Eagles, Golden Eagles and Fairy Pittas as endangered species; Northern Goshawks and Peregrine Falcon as vulnerable species; Japanese Night

Herons, Mandarin Ducks, Honey Buzzard, European Sparrow Hawks and Eastern Broad-billed Rollers as rare species that Environment Agency has registered. The natural forest with big wood in the study area should be conserved for the habitat of these species.

1. Yomei-cho 4-502-43, Ono-shi, Fukui 912